

科目名: <b>事業計画書の作り方</b>		科目コード	HH60
科目主査: <b>中村 光延</b>		担当講師: <b>中村 光延</b>	単位
			2
		配当年次	1
授業の目的と概要	グループワーク: <input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし	個人ワーク: <input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし	カメラ・マイクの必要性: <input checked="" type="checkbox"/> 必須 <input type="checkbox"/> 望ましい <input type="checkbox"/> 不要
<p>新しい事業を起こすとき、実行の指針となる事業計画が重要になってくることは言うまでもないことです。また、既存事業の運営においても売上計画を中心とした数値計画に終始しない事業計画が重要になってきます。そこで、本科目では事業計画の目的と新しい事業アイデアの創出から収支の見通しまでを検討する上で必要な項目を理解し、それらを事業計画に落とし込むステップと策定にあたっての留意事項を学びます。</p>			
履修の前提となる科目	<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし	科目名:	
履修の前提となる知識 その他特記事項	テキストを精読してください(特にわからない語句について調べながら)。その上で、不明点などを明確にし、授業で確認や質問ができるように準備してください。		
テキスト	『プロ直伝！成功する事業計画書の作り方』秦 充洋, ナツメ社, 2015年		
この科目の到達目標	<p>①事業計画の目的と事業計画策定に必要な項目が理解できる。 ②自分自身の職場など、実践の場面で事業計画を策定できる。</p>		
成績評価の方法	授業中の態度、課題、最終試験によって評価する。		
事後学習	起業や新規事業を考えている人は、実行までに時間があるとしても、現段階で考えられる範囲で実際に事業計画を策定してみましょう。起業や新規事業の予定がない人は、現在や過去の職場の事業で該当する項目について実際に事業計画に落とし込んで検討してみましょう。		
事後学習の参考文献	<p>『リーン・スタートアップ』エリック・リース, 日経BP, 2012年 『ビジネス・クリエーション!』ビル・オーレット, ダイアモンド社, 2014年 『起業大全』田所 雅之, ダイアモンド社, 2020年</p>		
スクーリング受講時に用意するもの			
<input checked="" type="checkbox"/> テキスト <input checked="" type="checkbox"/> 筆記用具			